

第1章 総則

(名称及び沿革)

第1条 この法人は、学校法人梅村学園と称する。

2 この法人は、1923年（大正12年）3月17日、梅村清光の創立した中京商業学校が、1948年（昭和23年）3月31日、当時の設立代表者梅村清明の寄附行為により、財団法人梅村学園となり、更に私立学校法（昭和24年法律第270号）の施行により学校法人梅村学園として組織変更せられたものである。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を愛知県名古屋市中区和区八事本町101番地の2に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」に基づく学校教育を行い、四大綱「1. ルールを守る、2. ベストを尽くす、3. チームワークをつくる、4. 相手に敬意を持つ」を体得する社会的に有為な人材を育成することを目的とする。

(設置する学校)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

(1) 中京大学 大学院

人文社会科学研究所

文学研究科

法学研究科

スポーツ科学研究科

社会学研究科

経済学研究科

工学研究科

経営学研究科

心理学研究科

文学部

日本文学科

言語表現学科

歴史文化学科

法律学科

経済学科

経営学科

心理学科

国際英語学科

総合政策学科

現代社会学科

国際教養学科

スポーツ教育学科

競技スポーツ科学科

スポーツ健康科学科

トレーナー学科

スポーツマネジメント

学科

法学部

経済学部

経営学部

心理学部

国際英語学部

総合政策学部

現代社会学部

国際教養学部

スポーツ科学部

工学部

機械システム工学科

電気電子工学科

国際学部

情報工学科  
メディア工学科  
国際学科  
言語文化学科  
普通科  
普通科

- (2) 中京大学附属 全日制課程  
中京高等学校 通信制課程 (広域)

### 第3章 役員及び理事会

(役員)

第5条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 6人以上9人以内  
(2) 監事 2人又は3人  
2 理事のうち1名を理事長とし、理事総数(理事現在数。以下同じ。)の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

(理事の選任)

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 学長  
(2) 評議員のうちから選任される理事は、評議員会の互選で定め、その定数は1人又は2人とする。  
(3) 学識経験者及びこの法人の功労者のうちから選任される理事は、評議員会の意見を聴いて理事会が選任する。その定数は1人又は2人とする。  
(4) この法人の教職員(学長及び教員その他の職員を含む。以下同じ。)のうちから選任される理事は、評議員会の意見を聴いて理事会が選任する。その定数は3人又は4人とする。  
2 前項第1号、第2号及び第4号の理事は、学長、評議員又は教職員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

(監事の選任)

第7条 監事は、理事会において選出した候補者の中から、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

- 2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反を適切に防止することができる者を選任するものとする。

(親族関係者の制限)

第8条 この法人の理事のうちには、各理事についてその親族その他特殊の関係がある者が1人を超えて含まれることになってはならない。

- 2 この法人の監事には、この法人の理事(その親族その他特殊の関係のある者を含む。)及び評議員(その親族その他特殊の関係のある者を含む。)並びにこの法人の教職員が含まれることになってはならない。

- 3 この法人の監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(役員任期)

第9条 役員(第6条第1項第1号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。)の任期は、4年とする。ただし、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

- 2 役員は、再任されることができる。  
3 役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なおその職務(理事長にあっては、その職務を含む。)を行う。

(役員補充)

第10条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1をこえるものが欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。

(役員解任及び退任)

第11条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上出席した理事会において、理事総数の4分の3以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき

- (2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
- (3) 職務上の義務に著しく違反したとき
- (4) 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき

2 役員は次の事由によって退任する。

- (1) 任期の満了
- (2) 辞任
- (3) 死亡
- (4) 私立学校法第38条第8項第1号又は第2号に掲げる事由に該当するに至ったとき  
(役員の報酬)

第12条 役員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。ただし、役員の地位にあることのみによっては、支給しない。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

(理事長の職務)

第13条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

(理事の代表権の制限)

第14条 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長の職務の代理等)

第15条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において定めた順位に従い、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(監事の職務)

第16条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- (1) この法人の業務を監査すること。
  - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
  - (3) この法人の理事の業務執行の状況を監査すること。
  - (4) この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
  - (5) 第1号から第3号までの規定による監査の結果、この法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。
  - (6) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会及び評議員会の招集を請求すること。
  - (7) この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、理事会に出席して意見を述べること。
- 2 前項第6号の請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。
- 3 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(理事会)

第17条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 理事会を招集するには、各理事及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面又は電磁的方法により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。
- 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

- 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。
- 9 前条第2項及び前項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 10 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第13項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 11 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 12 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 13 理事会の議事について特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない。

(業務の決定の委任)

第18条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(議事録)

第19条 議長は、理事会の開催の場所（当該場所に存しない役員が理事会に出席した場合における当該出席の方法を含む。）及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には、出席した理事及び監事が署名（電磁的記録により作成される議事録にあつては、電子署名。以下同じ。）若しくは記名押印し、又は議長並びに出席した理事のうちから互選された理事2人以上及び出席した監事が署名し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。
- 3 利益相反取引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録に記載しなければならない。

(常任理事会)

第20条 この法人の業務に関する重要事項以外のもので、あらかじめ理事会において定めたものを執行するため常任理事会を置く。

- 2 常任理事会は、理事長及びこの法人に常勤する理事により構成する。
- 3 常任理事会は、別に定める規程により、その業務を行う。

#### 第4章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第21条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、13人以上23人以内の評議員をもって組織する。ただし、評議員総数（評議員現在数。以下同じ。）は、理事総数の2倍を超えるものとする。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員及び監事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面又は電磁的方法により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面又は電磁的方法をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

12 評議員会の議事について特別の利害関係を有する評議員は、議決に加わることができない。

(議事録)

第22条 第19条第1項の規定は、評議員会の議事録の作成について準用する。

2 議事録には、出席した評議員及び監事が署名若しくは記名押印し、又は議長並びに出席した評議員のうちから互選された評議員2人以上及び出席した監事が署名し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

(諮問事項)

第23条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

- (1) 予算及び事業計画
- (2) 事業に関する中期的な計画
- (3) 借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)、基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
- (4) 役員に対する報酬等(報酬その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職慰労金をいう。以下同じ。)の支給の基準
- (5) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- (6) 寄附行為の変更
- (7) 合併
- (8) 目的たる事業の成功の不能による解散
- (9) 寄附金品の募集に関する事項
- (10) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

第24条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第25条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人の教職員のうちから、理事会において選任した者 4人以上6人以内
  - (2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上のものうちから、理事会において選任した者 1人以上3人以内
  - (3) 理事のうちから、理事会において選任した者 2人又は3人
  - (4) この法人に関係のある功労者のうちから、理事会において選任した者 1人以上4人以内
  - (5) この法人の設置する学校に在籍する学生の保証人及び生徒の保護者のうちから、理事会において選任した者 1人又は2人
  - (6) 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 4人又は5人
- 2 評議員のうちには、役員のいずれか1人と親族その他特殊の関係がある者の数又は評議員のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が評議員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 3 第1項第1号及び第3号に規定する評議員は、教職員又は理事の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。
- 4 第1項第5号に規定する評議員は、その学生又は生徒が卒業若しくは修了し、又は学籍を失ったときは評議員の職を失うものとする。

(任期)

第26条 評議員(前条第1項第3号により選任されるものを除く。以下この条において同じ。)の任期は、2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 評議員は、再任されることができる。

(評議員の解任及び退任)

第27条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
- (2) 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき

2 評議員は次の事由によって退任する。

- (1) 任期の満了
- (2) 辞任
- (3) 死亡

第28条 第12条の規定は、評議員について準用する。

#### 第5章 資産及び会計

(資産)

第29条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産及び運用財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。
- 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。
- 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第31条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第32条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第33条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第34条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算、事業計画及び事業に関する中期的な計画)

第35条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

- 2 この法人の事業に関する中期的な計画は、4年以上8年以内において理事会で定める期間ごとに、理事長が編成し、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第36条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決がなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

(決算及び実績の報告)

第37条 この法人の決算は、毎会計年度終了後2月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

- 2 理事長は、毎会計年度終了後2月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

第38条 この法人は、毎会計年度終了後2月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿（理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。）を作成しなければならない。

- 2 この法人は、前項の書類、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を各事務所に備えて置き、請求があつた場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について同項の請求があった場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除外して、同項の閲覧をさせることができる。

(情報の公表)

第39条 この法人は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、遅滞なく、インターネットの利用により、当該各号に定める事項を公表しなければならない。

- (1) 寄附行為若しくは寄附行為変更の認可を受けたとき、又は寄附行為変更の届出をしたとき  
寄附行為の内容
- (2) 監査報告書を作成したとき 当該監査報告書の内容
- (3) 財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿（個人の住所に係る記載の部分を除く。）を作成したとき これらの書類の内容
- (4) 役員に対する報酬等の支給の基準を定めたとき 当該報酬等の支給の基準  
(資産総額の変更登記)

第40条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後3月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

第41条 この法人の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終るものとする。

## 第6章 解散及び合併

(解散)

第42条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- (1) 理事会における理事総数の3分の2以上の議決及び評議員会の議決
- (2) この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における理事総数の3分の2以上の議決
- (3) 合併
- (4) 破産
- (5) 文部科学大臣の解散命令

2 前項第1号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を、同項第2号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第43条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において理事総数の3分の2以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人に帰属する。

(合併)

第44条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

## 第7章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第45条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

## 第8章 補則

(書類及び帳簿の備付け)

第46条 この法人は、第38条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に各事務所に備えて置かなければならない。

- (1) 役員及び評議員の履歴書
- (2) 収入及び支出に関する帳簿及び証ひょう書類
- (3) その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第47条 この法人の公告は、梅村学園の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第48条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

(責任の免除)

第49条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

(責任限定契約)

第50条 理事（理事長、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金100万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

附 則

- 1 この寄附行為は、1951年3月13日から施行する。
- 2 この法人の組織変更当初の役員は、次のとおりとする。

理事長 梅村清明

理事 安達寿雄

理事 丹羽政治

理事 小山福松

理事 堀部釵三

監事 梅村甲子郎

監事 佐藤哲心

附 則

この寄附行為は、1954年2月15日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1956年3月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1957年5月17日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1959年1月20日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1961年3月17日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1962年5月8日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1964年1月25日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1965年1月25日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1966年1月25日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1967年5月23日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1968年2月3日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1969年3月27日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1972年4月24日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1973年3月17日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1982年1月16日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1983年3月31日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1986年2月3日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1986年10月18日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1986年12月23日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1987年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1989年12月22日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1990年3月19日から施行する。

附 則

1990年1月19日文部大臣認可のこの寄附行為は、1990年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1990年12月21日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1991年3月20日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1993年1月28日から施行する。

附 則

1993年1月28日文部大臣認可のこの寄附行為は、1993年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1994年3月16日から施行する。

附 則

1993年11月1日文部大臣認可のこの寄附行為は、1994年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1995年3月16日から施行する。

附 則

1994年11月24日文部大臣認可のこの寄附行為は、1995年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1996年12月19日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1997年12月16日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1997年12月19日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1998年1月12日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1999年3月29日から施行する。

附 則

この寄附行為は、1999年12月22日から施行する。

附 則

1999年10月7日文部大臣認可のこの寄附行為は、2000年4月1日から施行する。

(中京大学の体育学部体育学科、健康教育学科の存続に関する経過措置)

中京大学の体育学部体育学科、健康教育学科は、改正後の寄附行為第4条第1号の規定にかかわらず、2000年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

(松阪大学の政治経済学部政治経済学科の存続に関する経過措置)

松阪大学の政治経済学部政治経済学科は、改正後の寄附行為第4条第2号の規定にかかわらず、2000年3月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、2001年8月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2001年10月10日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2001年12月20日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2002年12月19日から施行する。

附 則

2002年7月30日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2003年4月1日から施行する。

(中京大学の文学部国文学科の存続に関する経過措置)

中京大学の文学部国文学科は、改正後の寄附行為第4条第1号の規定にかかわらず、2003年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、2003年11月27日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2004年4月1日から施行する。

(松阪大学短期大学部生活科学科、幼児教育学科の存続に関する経過措置)

松阪大学短期大学部生活科学科、幼児教育学科は、改正後の寄附行為第4条第3号の規定にかかわらず、2004年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

2004年3月31日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2004年4月1日から施行する。

附 則

2005年3月31日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2005年4月1日から施行する。

(三重中京大学短期大学部幼児教育・保育学科の存続に関する経過措置)

三重中京大学短期大学部幼児教育・保育学科は、改正後の寄附行為第4条第3号の規定にかかわらず、2005年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、2006年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2007年4月1日から施行する。

附 則

平成20年3月19日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2008年(平成20年)4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2011年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2011年5月27日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣認可の日2011年（平成23年）10月17日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2013年4月1日から施行する。

附 則

平成25年5月8日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2013年（平成25年）7月1日から施行する。ただし、第6条については、2013年（平成25年）10月1日から適用する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（2013年12月18日）から施行する。

附 則

この寄附行為は、2014年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2015年4月1日から施行する。

附 則

平成28年2月26日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2017年4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日2017年（平成29年）5月30日から施行する。

附 則

平成29年9月28日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2017年（平成29年）10月1日から施行する。

附 則

平成29年8月31日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2018年（平成30年）4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2018年（平成30年）5月24日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣認可の日2018年（平成30年）8月2日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2018年（平成30年）10月24日から施行する。

附 則

令和2年3月24日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2020年（令和2年）4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2020年（令和2年）4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2020年（令和2年）10月29日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2021年（令和3年）4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣認可の日2022年（令和4年）2月28日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣認可の日2022年（令和4年）8月29日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日2023年（令和5年）2月22日から施行する。

附 則

令和5年3月23日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、2023年（令和5年）4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2024年（令和6年）4月1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、2024年（令和6年）5月23日から施行する。